第２回旭川市江丹別若者の郷
活性化協議会　資料３

樹木診断の中間報告の状況

１．現状

・樹木診断の結果，70 本中，樹種：イチイ 69 本，トウヒ 1 本
・イチイ 69 本のうち，枯死木・樹勢回復見込のないものが 25 本，内部が 50%以上腐り朽ちているものが 20 本。
・残り 24 本については成長不良。

２．枯死原因について

・そもそもイチイの移植に適さない自然環境であることに加え，移植工程の不良が重なったことが原因。

（１）移植場所の自然環境の不良

・イチイは耐陰性が強く，やや暗い林の中に純林をつくる特性を持つ。樹齢は平均 119 年(±23 年)，最も古いもので 305 年(±60 年)と推定される。100 年以上薄暗く風の抵抗も少ない地で生育したイチイが，急に明るく開けた場所に移植されたため，環境に対応できない。
・現地の風向は，西北西から西南西の西寄りの風が多い。特に道路側は山側に比べ西寄りの風を受ける面が多く，植栽地として適さない。
・イチイは「水松」と書くほど本来湿潤な土壌を好み，乾燥した場所は適さない。
・土壌は多くの根が侵入困難なほど固結した地盤である。

（２）移植工程の不良

・樹木の移植を行う時，一般的に 1～2 年前に根回しを行うことが基本だが，現状，根回しらしい根回しを行っているようには見えず，仮に行っていたとしても十分な細根の発生を待つ期間を取らずに移植したものと思われる。
・山出しする際，樹木の幹周に関係なく掘り取ったとみられ，結果，重機で根を引きちぎり根鉢の崩壊を招いたと思われる。
・トラック等に積み込みの際，適切な処置を怠り，積み込みワイヤー等により幹表面に傷が付き，溝枯れ病，胴枯れ，内部の腐朽に至ったと考えられる。
・植栽時に高植えされた結果，降った雨が浸透できず根腐れを起こし，強風時に根が揺れて切断され，また，春先に土壌水分が凍結し乾燥害を起こしている。

３．今後の対応

・計 45 本（全体の 65.2%）が，倒伏・枝折れの危険が大きく，直ちに伐採が必要である。（内部腐朽率 50%以上とは「非常に高い危険性があり，直ぐに倒伏・枝折れに繋がる恐れがある」状況）